



■2019年度『第1回安全研修会』が開催されました

今回の研修会においては、過去に発生させてしまった指摘事例の発表をもとに問題点を洗い出し、再発防止に向けた対策と取り組み内容を学び自社の安全活動に結び付けていくための研修会となりました。

ご来賓の豊田労働基準監督署 佐藤課長様より、「危なさと向きあおう」という内容で普段より取り組んでいるRAについてさらに踏み込む「論理的な安全衛生活動の推進・定着」にむけて講演をしていただきました。気づいたものに散発的に評点を付けるのではなく、「危険源」と「人」との関わり方を順序立てて洗い出し、作業者を安全に誘導するため各社の安全衛生担当者にさらに創意・工夫が必要であることを学びました。

日時:7月24日(水) 9:45~11:30

場所:豊田商工会議所 2F 多目的ホール

出席者:近藤部会長以下 73名(54社/77社)

来賓:豊田労働基準監督署 安全衛生課長
佐藤 様



《次第》

1. 開会の辞
2. 部会長挨拶
3. 重要指摘事項事例から学ぶ
発生状況～再発防止対策
4. 来賓ご挨拶
講話「危なさと向きあおう」
5. 事務局連絡
6. 閉会の辞

《部会長挨拶》



サンコー商事(株)
近藤 部会長

今年の1月から6月末の時点で16件の災害が発生しており、年度の半分を残しながら既に抑止目線に迫る数字となっております。現在、協力会において「相互声掛けキャンペーン」を実施中です。皆様も構内に入場の際は、積極的に声掛けをしていただき安全を図るようにしてください。

また、間もなく本格的に暑くなりますので熱中症の対策を講じてください。
本日の研修会の内容を持ち帰り、社内および関係会社に展開していただき無事故・無災害を目指しご協力をお願いします。

《重大災害事例報告》

事例-① ロックアウト未実施 (発生 3月9日(土):設備内調整時に3名中1名が未実施)

<要因>

人的:ロックアウトへの意識の薄さ
物的:視覚的な忘れ防止策がない
管理:安全活動・教育体制の不足

<対策>

人的:ロックアウト本質を理解のための講習を実施
物的:掛け札を掲示して注意を喚起する
管理:習慣づけのため自社内作業時もロックアウト

事例-② ロックアウト未実施 (発生 12月8日(土):複数台同時の作業時にロックアウト忘れ)

<要因>

人的:作責のロックアウト教育が不足
管理:教育の不足、手順書の未作成

<対策>

人的:ルール再確認・意識向上のため講習を実施
管理:責任者への講習と、社内への展開教育の実施

事例-③ ロックアウト未実施 (発生 3月9日(土):設備内作業時に4名中3名がロックアウト未実施)

<p><要因> 人的: 作責のロックアウトへの理解不足 管理: 安全教育の不足</p>	<p><対策> 人的: ルール再確認と安全の再教育を実施 ロックアウトの実機訓練と理解度テストを実施 管理: 作業標準書の作成</p>
---	--

事例-④ 作業者名簿なし・6ヶ月点検シールなし (発生 3月2日(土):書類不備と工具点検の未実施)

<p><要因> 人的: 構内ルール理解不足 管理: 工責・作責の事前チェック未実施</p>	<p><対策> 人的: 構内ルール周知の教育を実施 管理: チェックリスト・点検マニュアルを作成</p>
---	--

事例-⑤ 安全帯未使用 (発生 4月27日(土):高さ2.2mで腰掛作業の際、安全帯を未使用)

<p><要因> 人的: 転落災害へ繋がることの認識が不足 管理: 作責の管理・指導の不足</p>	<p><対策> 人的: 事例の勉強会実施と作責以外への指導も行う 管理: 作業標準書の追記作成</p>
--	---

(まとめ)

構内の作業に不慣れな仕入先を工責として管理教育していくことは難しいかと思えます。今後の課題となりますが、今回の事例と取り組みを参考にし自社の安全管理と不安全行動の未然防止活動に役立てていただくようお願い申し上げます。

《来賓講話》 『危なさに向きあおう』



豊田労働基準監督署
安全衛生課長
佐藤 様

何年も安全活動を続けているのに、問題点が未然に指摘されないのはなぜでしょう。例えば、人の「気づき」に頼り、目立つ危険にだけ目を向けていないですか。改善の結果リスクが残ってはならないという考えがありますが、技術的に解決できない問題や危なさを完全に取り去ることができない問題もあるのではないのでしょうか。対策を講じて、危なさを完全に取り去ることはできないことを認識したうえで可能な範囲で危なさの「度合い」をさげ、見定め、どのくらいで受け入れていくか考えるのが現実的です。これまでの個人の危険感受性や気づきに期待するのではなく、「災害発生プロセス」を踏まえて危なさを「調べる」姿勢に切り替えてください。危なさを把握する仕組みを持ち、対策を講じ、承知して管理下におくことが継続的に行われている状態、つまり、危なさと同じ向き合った状態が「安全」となります。



《事務局連絡》

- 1) 変化点発生時の対応、タブレットの貸出が可能となりました
- 2) 夏期連休工事に際してのお願い事項
- 3) 相互声掛けキャンペーン継続中 (5/10~8/18)
- 4) 平成30年度 安全表彰

「安全」と「安心」の違いがわかりますか？

※日本の労働安全に関する考え方は、欧米諸国とはやや特徴があると考えられています。
 ※安全とは「事故、災害の発生を防止する状態」。「安心」については「一度も発生していません」
 ※事故は発生し、発生したことを認識することが必要になります。

